

第41期生（平成22年度） 「乗船実習」 レポート

平成22年11月中旬から12月中旬にかけて、本学園最大のイベント、約1か月間にわたる「乗船実習」を実施した（生徒10名、指導教務3名）。

この実習は、船舶の運航技術や機関の運転技術をはじめ、カツオの漁場探索や一本釣り、漁獲物の処理、保存等の体験を通じて漁労技術の習得を図る目的で、毎年実施されている。今年度からは、県立焼津水産高等学校実習船「やいづ」（559トン）を使用して行われた。「やいづ」は平成21年6月に竣工したばかりの、全国屈指の最新鋭の実習船である。



航海予定

11月10日 焼津港出航

12日～15日 鹿児島にて活餌積込み & 見聞実習
ミクロネシア海域にて実習

12月3日～6日 パラオ共和国に寄港、見聞実習

13日 焼津港入港



実習概要

出航・・・11月10日（実習1日目）

多少の風はあるものの快晴のもと、生徒父母をはじめ、多くの関係者の方々に盛大に見送られ、出航。



餌入れ・・・11月12日（実習3日目）

ここまで、心配された船酔いに苦しむものはほとんどなく、順調に航行。本日、カツオ一本釣り用の活餌（カタクチイワシ）を積み込むため、鹿児島（隼人）に入港。焼津水産高校専攻科の生徒と共に、活餌をバケツリレーで搬入。



鹿児島見聞・・・11月12日（実習3日目）～15日（実習6日目）

一日観光定期バスを利用して、知覧特攻平和会館や知覧武家屋敷などの歴史資料館の見聞や開聞岳、池田湖など鹿児島の自然を満喫。

その他にも、鹿児島滞在中は、鹿児島市営市場の視察見学、桜島への散策や温泉入浴、港内での釣り、南九州一の繁華街「天文館」での自由行動など、これからの航海に備えて東の間の休息を楽しむ。





毎日の日課

航海中は毎日、6時30分に朝礼、ラジオ体操を行う。風の悪いときは教室（兼食堂）での朝礼のみであるが、風のいい日は船尾デッキにて行う。朝日と潮風を浴びながらの体操は清々しい気分にもなる、かな？

活餌の管理も重要な日課の一つである。朝夕毎日2回、水槽の清掃や餌やりなど、船員の指導を受けながら、当番生徒が順番に行う。



当直

航海中、生徒は船員とともに、ブリッジ（船橋）にて見張りや操船に関する業務「航海当直」を行う。また、機関室では主機関（エンジン）や発電機等の運転管理に関する業務「機関当直」を行う。8時～20時まで4時間の3交代制で実施した。時には、生徒が舵をもって操船したり、主機関の点検をすることもある。



初操業・・・11月18日（実習9日目）

鹿児島を出港して4日目。船は、マリアナ諸島（グアムやサイパンがある海域）の東側海域（もちろん米国の200海里外側）を航行中。操業は明日からの予定であったが、海鳥や魚の群れが見えたため急きょ操業体制に入る。午前8時前、遂に今航海最初の当たりがあり、釣り込み開始。生徒は皆人生初めての体験。無我夢中で、釣り込みは数分間で終了してしまったが、事前の練習の成果か、一人を除き全員が釣り上げることができた。揚がったカツオは魚体重2kg未満の銘柄「小」サイズであったが、その後は、魚体重5～7kg以上の銘柄「大～特大」サイズのものが断続的に揚がった。このサイズでは生徒一人の力では釣り込みできないため、二人がペアとなり「二丁ハネ」とよばれる竿を使用した。今日は合計4回の釣り込みで約1.2トンの漁獲量となった。



見張り・・・11月22日（実習13日目）

操業4日目。操業中はブリッジや機関の当直には入らず、全員で海鳥や“ナムラ（魚群）”探し＝「見張り」や、デッキでのロープワーク実習等を行った。見張りはとても重要な作業であるが、やはり、毎日釣れるわけ



ではなく、ナムラが見つからない時は、単調な作業だけに中には居眠りする不届き者も。



引き縄にかかったシイラを生徒が解体。慣れない包丁さばきであるが、魚を下ろすことも漁師にとっては当たり前。これも乗船実習の楽しみのひとつである。

大漁！・・・11月23日（実習14日目）

操業5日目。今日は快晴、風も弱く、うねりもない最高の風の中、結果的に今航海最高の漁獲日となった。早朝から操業が始まり、夕方までに断続的に計7回の釣込みが行われた。釣りあげられたカツオは銘柄「大～特大」サイズのもものがほとんどで、この頃には生徒はペアとの息を合わせ、「二丁ハネ」の扱いにも慣れてきた。今日は8トン強の漁獲量となり、生徒も大喜び！

釣込みがあったときには、魚体測定を行った。体長、体重（平均個体重を求める）はもちろん、性別や胃内容物などのデータを集め、その時の漁獲量を求めるとともに、カツオの資源生態調査を行っている研究機関に情報を提供しているそうだ。



船の食事

船と言えば、船酔いを心配する人も少なくない。当然船酔いになれば食事ものどを通らない。しかし、船酔いしない人または船酔いを克服した人には、船内での食事は最大の楽しみの一つといっても、過言ではない。通常、船内での食事は1日4回である。実習船「やいづ」の場合、朝食6時30分、昼食11時、夕食16時が目安で、それに夜間当直者には夜食が付く。学園生徒は、夜間当直はないので夜食はないが、個人持ち込みのお菓子やインスタントラーメンを食べている。

肝心の内容であるが、和洋中と驚くほど多種多様なメニューが並ぶ。焼き肉、ステーキ、ハンバーグ、天ぷら、フライ、焼き魚、煮魚、もちろんカツオのお刺身も。カレーにシチュー、混ぜご飯やちらし寿司、牛丼、八宝菜、ラーメンまで。おまけに、果物やゼリーやヨーグルトなどのデザート付。教務にとっては栄養過多で、まともに食べれば、体重増加は間違いなしだが、食べ盛り育ち盛りの生徒には大好評！



パラオ見聞・・・11月30日（実習21日目）～12月2日（実習23日目）

実習中の寄港地として、「9.11 同時多発テロ」以来9年ぶりの外地、パラオ共和国への寄港。生徒の多くは初めての海外旅行。パラオ国会議事堂や国際サンゴ礁センター等の見学をはじめ、

南国情緒あふれる地元レストランでの昼食。また、自由時には、海水浴や片言の英語でスーパーでの買物など、初めての経験が盛り沢山。



想定外の沖縄見聞・・・12月8日（実習29日目）～12月9日（実習30日目）

操業実習が予想以上に順調に早く終了したため、急遽、帰路沖縄へも寄港することになった。想定外の出来事に生徒は大喜び。那覇の中心街「国際通り」や新都心「おもろまち」での散策や買い物など、約1か月ぶりの“日本”を満喫した模様。パラオの自然も良かったが、やはり日本語（と、いうより携帯電話？）が通じる国内の方がいいのかな。

35日間にわたる乗船実習も無事終了。“漁師”を目指す生徒にとって、この貴重な体験が大きな糧になることを切に願う。

また、実習船「やいづ」乗組員と専攻科教務・生徒に深謝する。（教務一同）



焼津水産高校専攻科（後列）の生徒とともに（那覇新港にて）